

「3月以降の麦類の雑草防除について」

松本農業農村支援センター

麦圃場でスズメノテッポウなどが残草し繁茂すると、雑草により肥料が吸われ、追肥の効果が劣ったり、麦の生育が劣って減収する場合があります。また収穫作業に支障となる場合もあります。

圃場の残草状況を確認して、雑草が多い場合は、麦の生育期処理（茎葉処理）に農薬登録のある除草剤による防除をお願いします。

令和6年長野県農作物病害虫・雑草防除基準に掲載されている、麦生育期に処理が可能な除草剤は下表のとおりです。

除草剤の使用に際しては、必ずラベルや説明書の内容を確認した上で、登録内容に沿った使用をしてください。

表 麦生育期の除草剤と対象草種

(登録内容は R6. 2. 29 JPP ネット調)

除草剤名	作物名	対象草種	使用量(10a当)	使用方法	使用時期	散布液量(10a当)	使用回数	
アクテノールB乳剤	麦類	一年生広葉雑草	100~200ml	雑草茎葉散布 又は全面散布	種ばらみ期まで (雑草生育初期)	70~100リットル	2回以内	
エコパートフロアブル	小麦 (秋まき)	一年生広葉雑草(2~4葉期) ヤエムグラ(2~6節期)	50~100ml		小麦の節間伸長開始期まで (但し収穫45日前まで)	100リットル	2回以内	
	大麦	一年生広葉雑草(2~4葉期)			大麦の節間伸長開始期まで (但し収穫45日前まで)			
ハーモニー75DF	小麦	スズメノテッポウ	5~10g		播種後~麦2葉期	100リットル	1回(注)	
					麦3葉期~節間伸長前	50~100リットル		
		一年生広葉雑草	5~10g		播種後~麦2葉期	100リットル		
					麦3葉期~節間伸長前	50~100リットル		
	大麦	スズメノテッポウ	5~10g		節間伸長開始期~種ばらみ期 (但し収穫45日前まで)			50~100リットル
					播種後~麦2葉期	100リットル		
		一年生広葉雑草	5~10g		麦3葉期~節間伸長前	50~100リットル		
					播種後~麦2葉期	100リットル		
麦類 (小麦を除く)	一年生雑草(イネ科を除く)	100~200ml	生育期(但し収穫90日前まで)		70~100リットル	1回		
			小麦	一年生雑草(イネ科を除く)			生育期(但し収穫45日前まで)	

注) 播種後にハーモニー細粒剤Fを使用している場合は、ハーモニー75DFは使用できない

留意事項

- 1 ナズナ等一般的な広葉雑草はいずれの除草剤も効果があるが、雑草が大きくなる前に使用する。
- 2 ヤエムグラが残草した場合、葉令が小さい場合はいずれの除草剤も効果があるが、発生が目立つ圃場やヤエムグラの生育が進んでいる圃場では、エコパートフロアブルを使用する。
- 3 スズメノテッポウ、ナガミヒナゲシが残草した場合は、ハーモニー75DFを使用する。
- 4 クジラグサ、ヒメアマナズナ、グンバイナズナの多い圃場は、ロゼット径3cm（500円玉位の大きさ）までに、ハーモニー75DFを使用する。
- 5 カラスノエンドウの発生圃場は、2～3葉期までにアクチノールB乳剤を使用する。
- 6 播種後にハーモニー細粒剤Fを使用してある場合は、ハーモニー75DFは使用できないので注意する（含有成分の使用回数の制限）。
- 7 生育処理剤（茎葉処理剤）は少量でも、他の作物に対する活性が高いため、ドリフトには十分注意し、使用後の機械、ホース、タンク等は十分洗浄する。（特にハーモニー75DFは少量でも非常に高活性なので注意する）
- 8 ネズミムギ（イタリアンライグラス）、ヤグルマギク、クジラグサ・ヒメアマナズナ等の帰化アブラナ科雑草の発生している圃場が見られます（「麦ほ場の帰化雑草について」もご参考ください）。

これらの雑草は、麦畑に侵入し、一端広がってしまうと防除が困難なので、圃場で見つけ次第、除去してください（きれいだからといって畦畔に残さないようにしましょう）。